化学物質等安全データシート(MSDS)

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	:捺染顔料インクTP250 シアン
製品コード	:SPC-0730C-1
会社名	:株式会社ミマキエンジニアリング
住所	:長野県東御市滋野乙2182-3
担当部門	:IM事業部
担当者名	:田林 勲
メールアドレス	:ink@mimaki.jp
電話番号	:0268-64-2413
FAX番号	:0268-64-5580
緊急時の電話番号	:0268-64-2281
(事故に伴い急性中毒のおそれがある場合)	:(財)日本中毒情報センター 中毒110番 ＊一般市民専用電話 (大阪)072-727-2499 365日 24時間対応 (つくば)029-852-9999 365日 9～21時対応 ＊医療機関専用電話 (大阪)072-726-9923 365日 24時間対応 (つくば)029-851-9999 365日 9～21時対応
推奨用途及び使用上の制限	:水系顔料インク、インクジェットプリンター用

2. 危険有害性の要約

〔GHS分類〕

物理化学的危険性

火薬類	:分類対象外
可燃性/引火性ガス	:分類対象外
可燃性/引火性エアゾール	:分類対象外
支燃性/酸化性ガス	:分類対象外
高圧ガス	:分類対象外
引火性液体	:区分外
可燃性固体	:分類対象外
自己反応性化学品	:分類対象外
自然発火性液体	:分類対象外
自然発火性固体	:分類対象外
自己発熱性化学品	:分類対象外
水反応可燃性化学品	:分類対象外
酸化性液体	:分類対象外
酸化性固体	:分類対象外
有機過酸化物	:分類対象外
金属腐食性物質	:分類対象外

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	:区分外
急性毒性(経皮)	:区分外
急性毒性(吸入:ガス)	:区分外
急性毒性(吸入:蒸気)	:区分外
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	:区分外

皮膚腐食性/刺激性	:区分3
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	:区分外
呼吸器感作性	:区分外
皮膚感作性	:区分1
生殖細胞変異原性	:区分外
発がん性	:区分2
生殖毒性	:区分外
特定標的臓器/全身毒性(単回ばく露)	:区分外
特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露)	:区分外
吸引性呼吸器有害性	:区分外

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性)	:区分外
水生環境有害性(慢性)	:区分外

上記で記載が無いものは、分類できない、分類対象外

〔GHSラベル要素〕

絵表示

注意喚起語

警告

危険有害性情報

H316 軽度の皮膚刺激。
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
H350 発がんのおそれ。

注意書

[安全対策]
P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P261 ガス、ミストの吸入を避けること。
P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
P280 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
[応急措置]
P302+P352 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹸で洗うこと。
P333+P313 皮膚刺激または発疹が生じた場合:医師の診断、手当てを受けること。
P363 汚染した衣類は再使用する場合には洗濯をすること。
P321 特別な処置が必要である(MSDS 4.応急措置要参照)。
P308+P313 暴露または暴露の懸念がある場合:医師の診断、手当てを受けること。
[廃棄]
P501 内容、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託し廃棄すること。

〔その他の危険有害性〕
吸入した場合:
鼻や喉に刺激を与えるおそれがある。

飲み込んだ場合:
胃腸の痛みを起こすおそれがある。

皮膚に付着または眼に入った場合:
眼の刺激あるいは火傷を起こすおそれがある。溶液に繰り返し接触したり、長期間接触したりすると、不快感や皮膚の炎症を伴う刺激を受けるおそれがある。

3. 組成、成分情報

単一物質・混合物の区分　　:混合物
成分及び含有量

成分名	含有量〔%〕	官報整理番号	CAS No.	備考
ジプロピレングリコールモノメチルエーテル	3-5	(7)-97	34590-94-8	
青顔料(銅化合物)	3-5	社外秘	社外秘	
2-ピロリジノン	1-3	(5)-112	616-45-5	
アセトン	0.1-0.3	(2)-542	67-64-1	
テトラヒドロフラン	0.1-0.3	(5)-53	109-99-9	

規制対象外成分:80-90%

4. 応急措置

吸入した場合
蒸気や噴霧は吸い込まないように留意。蒸気を誤って吸入した場合は、新鮮な空気のある場所に移す。呼吸が不規則で有ったり、とまったりした場合は人口呼吸を行う。意識がない場合は、回復体勢にし、医師の指示を受ける。症状が持続する場合は、直ちに医師に連絡する。
皮膚に付着した場合
溶剤またはシンナーを使用してはならない。直ちに汚染された衣服を脱がせる。水と石鹸、あるいは容認された皮膚洗浄剤で皮膚をきれいに洗う。皮膚の炎症が継続する場合は、医師に連絡すること。
目に入った場合
コンタクトレンズをはずす。両まぶたを開き、きれいな水で最低15分間何度も洗浄する。医師の指示を受ける。
飲み込んだ場合
飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡し、容器またはラベルを見せること。無理に吐かせないこと。安静にする。
応急措置をする者の保護
・適切な保護具(保護メガネ、防護マスク、手袋等)を着用する。
・換気を行う。

5. 火災時の措置

消化剤
　水スプレー、粉末消化剤、泡
使ってはならない消化剤
　大型棒状の水
火災時の特有の危険有害性
　蒸気は空気と混合して爆発性になることがある。火災時には消化用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。溶剤の蒸気は空気より重いので、床上に広まる可能性あり。
特有の消火方法、消火を行う者の保護
　必要に応じて着用:完全保護耐火服必要に応じて自給式呼吸措置を装着する。火災の場合は、散水によりタンクを冷却する。火災時には消化用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
　換気のよい場所で保管する。付近の着火源となるものを取り除く。安全の指令に従う。蒸気を吸入してはならない。
環境に対する注意事項
　物質が排水施設に流れ込まないようにする。川、湖または排水システムの汚染が発生した場合、条例に従いそれぞれの当局に通知する。
除去方法
　漏洩物は不活性な物質(砂、土、バーミキュライト、珪藻土などに)吸収させて、容器に回収し、条例に従って廃棄する。溶剤を使用せず、洗剤を用いて清浄する。
二次災害の防止策
　現地の規定に従い、処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
　引火性または爆発性蒸気が増大することを防止し、許容濃度(OEL)を超えないようにする。この製品は着火や他の発火源がない場所のみで使用する。火花の出る道具は用いない。作業者は帯電防止の安全靴及び作業着を着用する。火花のでる道具は用いない。皮膚や眼に接触をさける。蒸気やスプレー煙霧を吸い込まない。作業エリアでは喫煙、飲食は禁止する。
保管
　ラベルの予防措置を遵守する。熱源、着火源、直射日光を避け、乾燥した換気のよいところで保存する。禁煙。

8. 暴露防止及び保護措置

〔管理濃度、許容濃度〕

化学名			
ジプロピレングリコール	STEL	150ppm	ACGIH
モノメチルエーテル	TWA	100ppm	
青顔料	TWA	100mg/m3	ACGIH
	TWA	3mg/m3	
アセトン	STEL	750ppm	ACGIH
	TWA	500ppm	
	TVL	500ppm	管理濃度
	TWA	200ppm	日本産業衛生学会許容濃度勧告値
	TWA	470mg/m3	
テトラヒドロフラン	TWA	50ppm	ACGIH
	TLV	200ppm	管理濃度
	TWA	200ppm	日本産業衛生学会許容濃度勧告値
	TWA	590mg/m3	

〔設備対策〕

十分に換気する。そのためには、空気の入れ替えを良く行い(実行可能であれば)局所排気装置を使う。これらが粒状物質および溶媒蒸気の濃度をOEL未満に保つために十分ではない場合、適切な呼吸保護具の着用が必要である。

〔保護具〕

呼吸器の保護具

作業者が暴露限界濃度以上に直面する場合、適切な呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

・有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用すること。

目の保護具

・取り扱いには保護メガネを着用すること。

皮膚及び身体の保護

適切な保護服を着用すること。天然繊維または耐高熱合成繊維製の静電防止服を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

性状(状態、色)	:青色液体
臭い	:特異臭
粘度	:4～7mPa・s(35℃)
Ph	:7～9(25℃)
沸点(初留点及び沸騰範囲)	:100℃
引火点	:>100℃
蒸気圧	:1.0hPa
蒸気密度	:情報なし
比重(密度)	:1.0～1.1
溶解度	:水に対する溶解性:可溶
自然発火温度	:270℃
分解温度	:情報なし

10. 安定性及び反応性

安定性(危険有害反応可能性)
　安定
避けるべき条件
　推奨する保管及び取り扱いにおいて安定(第7項参照)
混触危険物質
　発熱反応を避けるため、酸化剤、強アルカリ、強酸の物質から離しておく。
危険有害な分解生成物
　高温時に一酸化炭素・二酸化炭素・窒素酸化物などの危険有害な分解物が生成するおそれがある。

11. 有害性情報

吸入した場合
鼻や喉に刺激を与えるおそれがある。

飲み込んだ場合
胃腸の痛みを起こすおそれがある。

皮膚に付着または眼に入った場合
眼の刺激あるいは火傷を起こすおそれがある。溶液に繰り返し接触したり長期間接触したりすると、不快感や皮膚の炎症を伴う刺激を受けるおそれがある。

12. 環境影響情報

一般注意事項
・漏洩、廃棄等の際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。
特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物
・廃インク、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。
・容器、機器装置を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
・排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。

汚染容器及び包装
・空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
・許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理をする。

14. 輸送上の注意

取り扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。

国際輸送に関する国連勧告の定義上は、危険物に該当しない。

〔国内規制〕
国内輸送上の危険物には該当しない。

15. 適用法令

労働安全衛生法　　:名称等を通知すべき有害物・・・ジプロピレングリコールモノメチルエーテル
アセトン
青顔料(銅化合物)

16. その他の情報

本データシートは、作成時または改定時において、製品及びその組成に関する最新の情報(危険有害性情報・取扱情報)を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂致します。
また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。
本製品を当社が認めた材料以外のものと混合、当社が認めた使用以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行って下さい。

改訂履歴

Ver.	日付	項目No.	内容
1.0	2011/9/16		新規作成